ほっとする家 アイホーム 通 信
http://www.ishizakigumi.com
いろいろな情報を掲載しています。
詳しくはホームページで アイホーム石崎組 検索
Vol,70 2018年1月1日発行

快適な住まいをデザインする
株式会社 石崎組
江別市幸町14 - 3
Tel (011) 382 - 5141

謹賀新年
江別の皆様、あけましておめでとうございます。
これからの時期、寒さも一段と厳しさを増し、雪掻きも大変になってきます。
呉々もお身体に気を付けて、北海道の長い冬を元気に乗り切りましょう！。
今年一年も、お客様に愛される家創り、長く住める家創りをご提供すべく、
技術の向上に努めて参ります。
これからも、宜しくお願い致します。

代表取締役社長　石﨑　昭仁

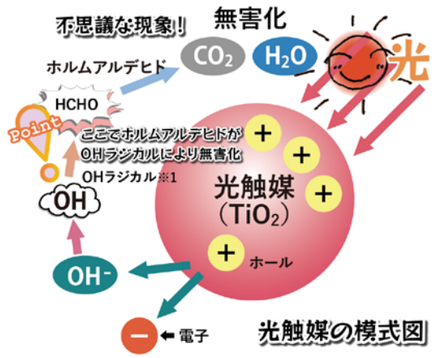
光熱触媒について・・・。

弊社の健康志向住宅について、２ヶ月にわたり記載してきました。
健康と言うと、ちょっと語弊があるかも知れません。住んで健康になるのではなく、健康を阻害する、健康に影響のある化学物質の発散を、できるだけ少なくする住まいとお考えください。漆喰が奏でるスッキリした空気感、天然の木材が奏でる質感、五感に訴える住まい創りを目指し、お客様の満足度を高め、気持ち良く、末長くお付き合いのできる住まい創りを目指しています。

現在の住まいは技術開発の進歩により、どのメーカーでも大差のない住まい作りが可能となりました。そんな中、本年より新しく健康志向の強い素材の取り扱いを始めました。
その健康志向素材の幻の漆喰®について、お客様からの素朴な疑問が寄せられましたので、今回はその疑問にお答えしたいと思います。
幻の漆喰®は化学物質を分解し空気を綺麗にするって・・・本当～？、なんだか怪しいな～と言う内容です。

幻の漆喰®は天然の赤貝等の貝殻に特殊な加工が施されています。漆喰はつなぎのスサと呼ばれる繊維、銀杏草から抽出したのり（天然の接着剤）、そして基質の焼成カルシウムで出来ています。焼成カルシウムに光熱触媒と言う特殊な加工が施され、この光熱触媒は空気を綺麗にする事がわかっています。
一時期、光触媒加工された、花（造花等）が流行りました。幻の漆喰®はこの光触媒に熱にも反応する加工がされています。光触媒の模式図でご説明します。
百科辞典によると、光を吸収する事によって、他の物質に化学反応を引き起こさせる触媒機能をもつ物質、と記載されています。代表的な物質は酸化チタンで、この酸化チタン加工された物質に光が当たると、化学物質などの有害物質を分解してくれる様です。幻の漆喰®は、光だけではなく、熱にも反応する優れ物です。
モデルハウスで体感した私たちの感想は、爽やかな空気感が印象に残りました。また夏場の湿気の多い日でも、じっとりした感じがなく、すっきりと爽やかな感じがしました！。調湿機能と触媒機能を持つ幻の漆喰®は熱にも反応する光熱触媒です。リフォームにも幻の漆喰®をおすすめします。

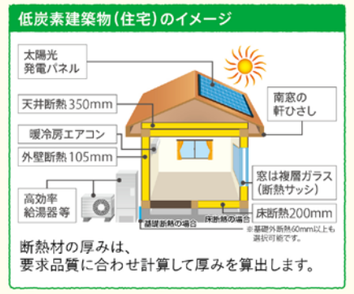
※1：OHラジカルは強力な酸化力を持つ為に近くの有機物から電子を奪い、自分自身が安定になろうとします。電子を奪われた有機物は結合を分断され、最終的には二酸化炭素や、水となり大気中に発散して行きます。



光触媒の模式図

認定低炭素住宅とは・・・？。

弊社では、認定低炭素住宅仕様を標準としています。モデル公開の際に認定低炭素って何？と質問されるお客様が結構いらっしゃいました。では、認定低炭素住宅ってどんな住まいなのでしょうか？。
認定低炭素住宅とは、今までの断熱性重視の住宅評価から、住まい全体のエネルギー消費量評価に変わった住宅の事です。昔は壁、屋根等の断熱性能、窓の断熱性能等、住まい（うつわ）での熱の逃げる量を指標にしていました。この評価だと住まいの断熱性は良くても、日頃使う暖房器具、給湯器の性能、さらに水の使う量、照明等、住まいの設備は省エネに反映されませんでした。極端な言い方をすると、断熱性能の良い住まいに住んでも、効率の悪い器具を使い、エネルギーを浪費するのでは本末転倒と考えた様です。そこで暖房、給湯、そして蛇口、照明器具等を含めて全てのエネルギーを一次エネルギーとして換算して評価しました。そのエネルギー基準をクリアする優れた住まいには、減税、低金利融資（住宅金融支援機構）等のメリットがあります。ぜひご検討ください。



Point 無意識のうちに省エネできる！。

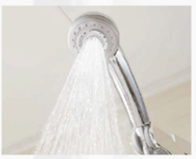
エコハンドル 〉 ムダなお湯を使わず節約

出典：lixil洗面化粧空間総合カタログP167より

住まいのエコ化＋使い方のエコ化で省エネを実現し、快適でお財布に優しい住まい作りが、低炭素住宅の狙いです。

省エネハンドルの構造です。温水とのまじわり位置を変える事により年間のエネルギー削減に貢献します。

節水タイプのシャワーヘッドは普通に使って水量を調整しトータルでの使用量を削減します。



出典：lixil Ariseカタログ P23より

ヒートショックに気をつけよう！。

お風呂場の室温と脱衣場の室温、そしてお湯の温度。この温度差に十分注意が必要です。また、42℃以上のお湯に急につかると血圧が急上昇し、色々な症状が現れます。くれぐれも急の付く動作には注意が必要です。まずは脱衣場の室温とお風呂場の室温を上げ、ヒヤッとしない温度設定にする必要があります。これからの季節、だんだん室温と浴室の温度差が大きくなります。浴室の事故発生が多くなる季節ですので十分お気を付け下さい。